

栄 町 遺 跡

1999年12月

大阪府教育委員会

は し が き

羽曳野市域のほぼ中央の低位段丘面には、ひときわ目立つ大型前方後円墳と並んで、それらの古墳群の間を占める形で集落遺跡が立地しています。栄町遺跡や誉田白鳥遺跡それに古市遺跡など、弥生時代から近世におよぶ遺跡群も、前の山古墳（白鳥陵）の後円部東側に接する形で分布しています。

今回の調査地点では栄町遺跡の北方にあたりますが、同時に誉田白鳥遺跡や古市遺跡とも接近していますので、調査成果は単に栄町遺跡の内容・性格を補うだけのものではありません。特に、数棟の7～8世紀の建物の痕跡が発見できたことは、今後のこの地域の同時代の様子を具体的に証拠立てて復元する重要な資料となります。

このようなデータを得るにあたっては、関係諸機関また地元関係者の方々の文化財保護に対する認識がなければ、果たされなかったことと心より感謝しています。そのような認識を今後もより一層深められ、文化財行政全般へのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

平成11年12月

大阪府教育委員会

文化財保護課長 鹿野 一 美

例 言

1. 本書は、大阪府教育委員会文化財保護課が、大阪府土木部から依頼を受けて、平成10年度および同11年度に実施した国道170号線歩道設置事業にかかる、羽曳野市栄町所在栄町遺跡の発掘調査事業の文化財調査報告である。
2. 調査は大阪府教育委員会文化財保護課調査第1係技師 柘本哲を、遺物整理については同資料係技師 井西貴子を担当者とし、平成10年度は平成11年1月29日に着手し、平成11年3月31日に終了、平成11年度は同11年8月4日に着手し、平成11年12月28日に終了した。
3. 調査の実施にあたっては、大阪府土木部富田林土木事務所、羽曳野市教育委員会他、地元関係者の方々から援助を受けた。
4. 本書で使用した方位は、座標北を示し、標高はKBMを基準としてT.P.で示している。
5. 本書で使用した座標は、国土座標第Ⅳ座標系に基づいている。
6. 遺物写真については阿南写真工房に委託した。

はじめに

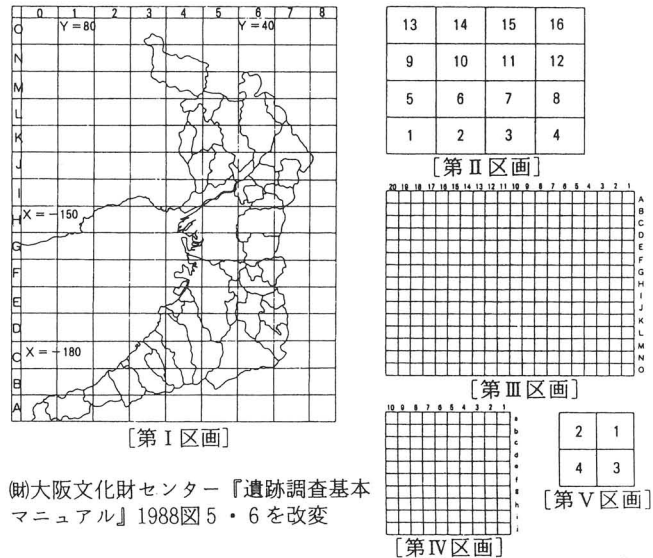
栄町遺跡は羽曳野市栄町に所在する。本遺跡は、既往の調査結果からも遺構・遺物が確認されることは予測されていたが、事前に1㎡の試掘トレンチ調査を実施し、層高30cmの表土下に部分的に残る包含層と遺構検出面を確認した。そのため、'98年度・'99年度の2カ年にわたり、調査を実施した。

'98年度の調査は、近鉄古市駅から西へ100m、国道旧170号線、白鳥3丁目交差点の南側にある料亭「清月」と南40mの「明治生命」までの南行き車線の歩道で約152㎡実施した。'99年度の調査は、旧国道170号線白鳥交差点の北側で、約70㎡実施した。

調査結果については、2年度分をまとめて報告する。

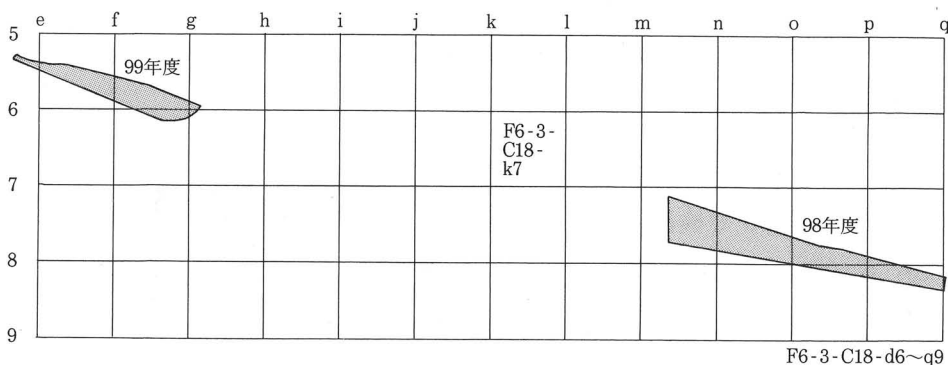
調査時における地区割りは、任意の点から5m方眼を設定したが、整理にあたっては国土座標値における位置を示した。

水準値は、任意で設定したため、断面図で示しているレベルはKBMからの数値である。KBMを設定した位置については第3、4図に示した。



(財)大阪文化財センター『遺跡調査基本マニュアル』1988図5・6を改変

第1図 調査区地区割り方法



第2図 調査地区割設定図

第1章 遺構と遺物

第1節 '98年度調査

遺構検出面となる地山の黄色粘土面は調査区の北半に一様に堆積するが、南半では場所によって若干違う土層が見られる。南端では地山面が隆起し、現在は国道170号線により断ち切られている東西方向に延びる丘陵部へと続いている。

したがって、南端部の第19層は山砂であり、これは丘陵部頂上で行った試掘調査によって確認した淡赤褐色の礫層とともにこの丘陵堆積層を構成している。

調査区南半部ではこの地山面上に5～20cmの黄色粘土、砂質土の堆積が見られる。この層からは古代の土師器片が出土しており、中世の遺物は含まない。上層には中世包含層である灰黄褐色粘質土が部分的に堆積する。

また中央部の污水管設置に伴う攪乱を受けた第12層では廃材に紛れて埴輪片（2～6）や土師器甕把手（7）が出土した。

土坑1 F6-3-C18-p9で検出した。西側は調査区外である。径0.7m以上×0.5m、深さ0.15mを測り、埋土は灰色粘質土層1層である。

土坑2 F6-3-C18-p9で検出した。東側は調査区外である。南北0.3m、深さは0.2mを測り、埋土は灰色粘質土1層である。

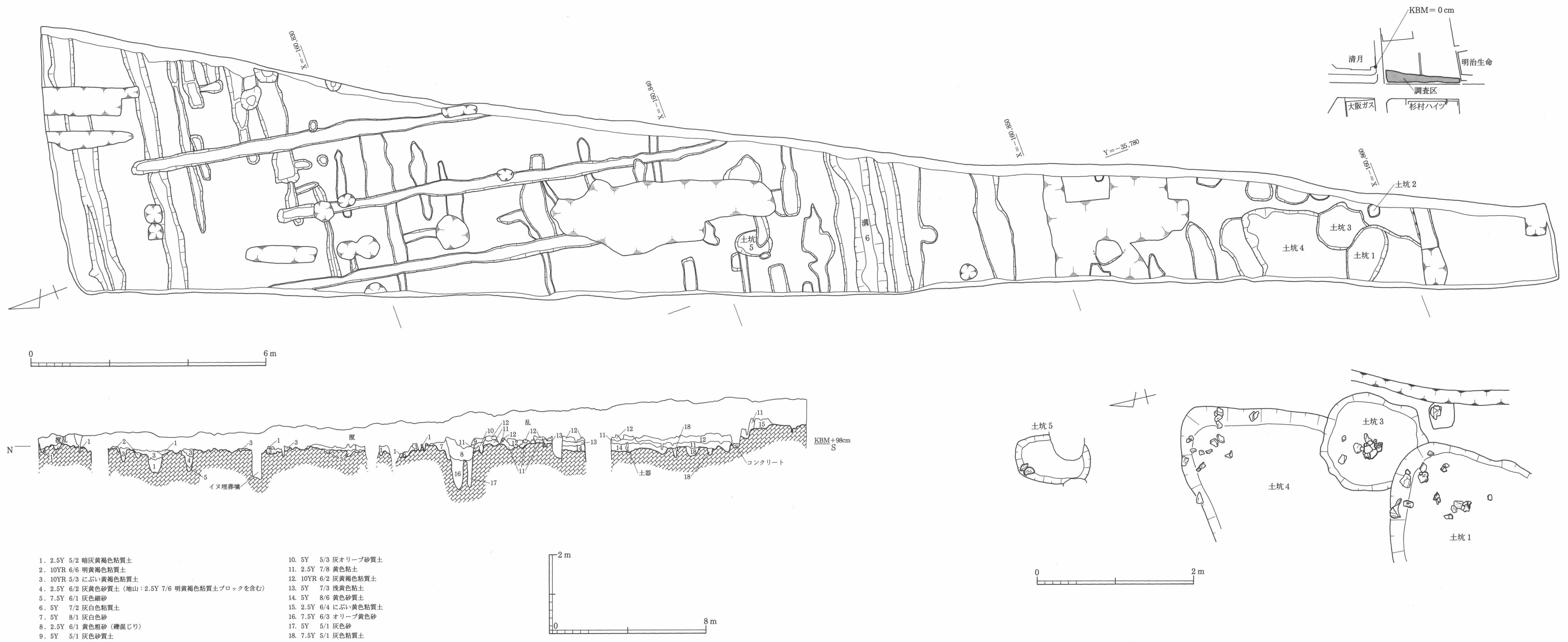
土坑3 F6-3-C18-p9で検出した。南西部を土坑1に切られる。深さは0.2m、埋土は灰色粘質土1層である。7世紀後半と思われる土師器の甕（12）が出土した。

土坑4 F6-3-C18-p9で検出した。西側は調査区外、中央部を土坑1、3に切られる。深さは0.2m、埋土は灰白色砂質土1層である。布留式の甕（11）、高坏（10）が出土した。

土坑5 F6-3-C18-o8区で検出した。東側を中世溝に切られている。径0.95×0.6m、深さ6～8cmを測り、埋土は灰黄色粘土1層である。北肩から流れ込む形で6世紀後半の須恵器坏身（9）が出土した。

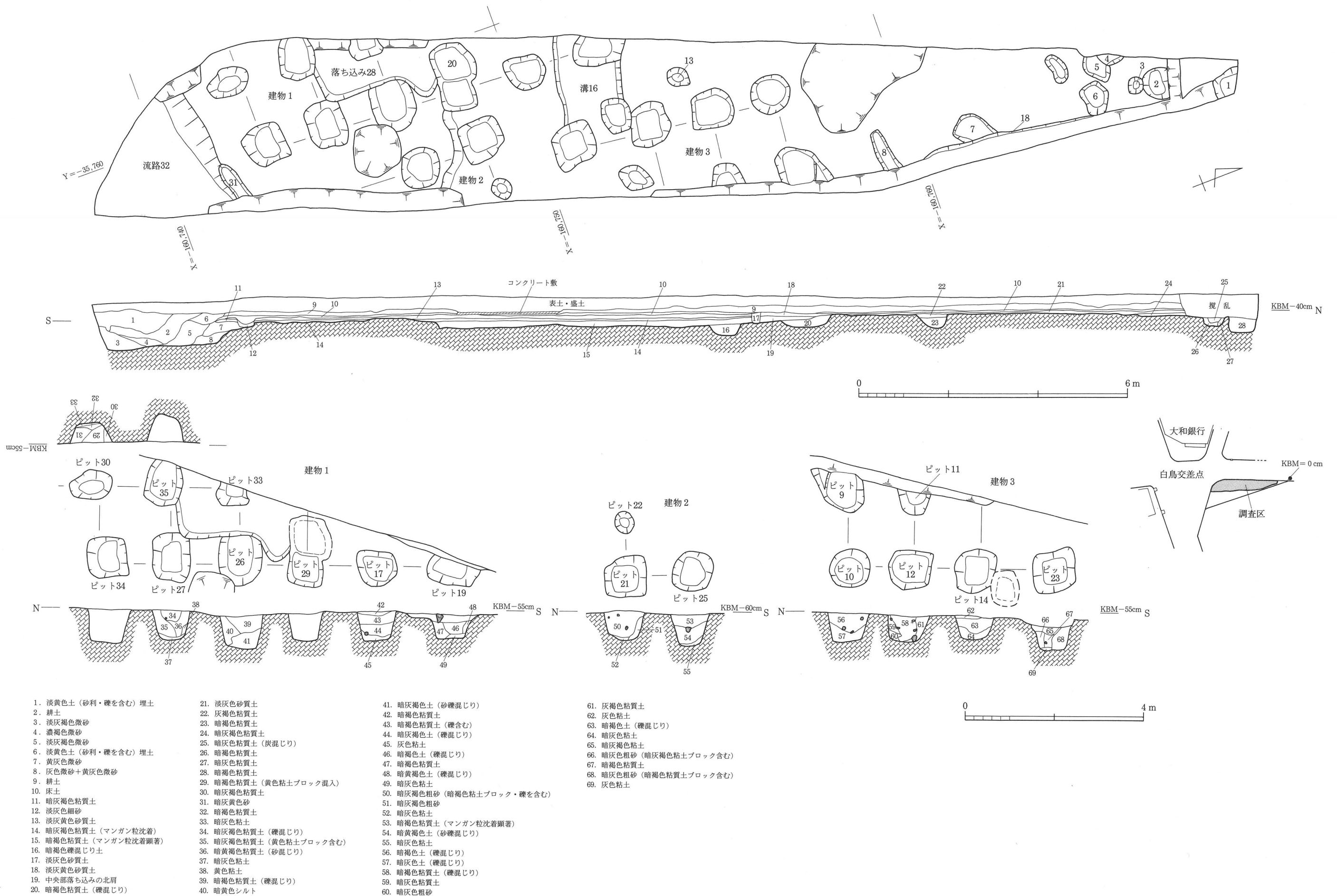
溝6 F6-3-C18-n8で検出した。東西いずれも調査区外である。幅1.3m～0.4m、深さ0.35～0.4mを測る。第1層以下は2状に分かれ、溝肩に柱穴が認められた。出土遺物は瓦器、土師器の細片が多いが、上層より瓦質火鉢の破片（1）が出土した。

中世溝 F6-3-C18-m. n、7.8で検出した。東西及び南北方向で検出した。東西溝は南北溝に切られる。埋土は南北溝が黄褐色粘質土、東西溝が灰白色砂質土を呈する。中世の瓦（8）が出土した。



- | | |
|--|-----------------------|
| 1. 2.5Y 5/2 暗灰黄褐色粘質土 | 10. 5Y 5/3 灰オリブ砂質土 |
| 2. 10YR 6/6 明黄褐色粘質土 | 11. 2.5Y 7/8 黄色粘土 |
| 3. 10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質土 | 12. 10YR 6/2 灰黄褐色粘質土 |
| 4. 2.5Y 6/2 灰黄色砂質土 (地山: 2.5Y 7/6 明黄褐色粘質土ブロックを含む) | 13. 5Y 7/3 浅黄色粘土 |
| 5. 7.5Y 6/1 灰色細砂 | 14. 5Y 8/6 黄色砂質土 |
| 6. 5Y 7/2 灰白色粘質土 | 15. 2.5Y 6/4 にぶい黄色粘質土 |
| 7. 5Y 8/1 灰白色砂 | 16. 7.5Y 6/3 オリブ黄色砂 |
| 8. 2.5Y 6/1 黄色粗砂 (礫混じり) | 17. 5Y 5/1 灰色砂 |
| 9. 5Y 5/1 灰色砂質土 | 18. 7.5Y 5/1 灰色粘質土 |

第3図 98年度調査区遺構平面図、西壁断面図、遺物出土状況



第4図 99年度調査区遺構平面図、東壁断面、建物1・2・3平面図、断面図

まとめ

今回の調査では中世以前の遺構の存在は予想していなかったが、調査区中央部で土坑5から6世紀後半の須恵器坏身が出土し、土坑3、4からは7世紀後半の土師器が出土した。本調査区から北50mの地点（'99年度調査区）で、当該期の掘立柱建物が検出された。生活域は北側に広がるものと考えられる。中世は耕作地であり、中央部で検出された大溝は地割り境に沿った16世紀末あたりに埋没する灌漑水路の可能性を考えたい。

第2節 '99年度調査

遺構面は黄色粘土を主とする地山面で確認した。地山面は南に向かって若干下がっており、調査区南側では、中世までの遺物を含む淡灰黄色砂質土が約10cm堆積する。調査区中央部分では幅約8m、深さ約15cmの落ち込み28が検出された。埋土は暗褐色粘質土を呈し、6世紀後半の須恵器の坏蓋（1）、坏身（4）、6世紀中葉の土師器の高坏の脚部（9～11）が出土した。

また調査区南端で、建物群の南を画するように東西方向に流れていた流路跡の北肩を検出した。本流路の時期は7～8世紀代（14、15）、若干流路幅を減じて中世（18）にも流れていたと考えられる。

建物1 F6-3-C18-f5で検出した。全容は調査区外であるためわからないが、5×1間以上、主軸はN-20°-Eで、柱間寸法は1.5～1.6mを測る。掘方は約0.8～1m、深さは約0.4mを測り、埋土は1～3層に分層できる。総柱建物になる可能性が推測できる。柱はすべて抜き取られていた。

建物2 F6-3-C18-f5で検出した。全容は調査区外であるためわからないが、2×1間以上、主軸はN-18°-Eで、掘方は約0.8～1m、柱間寸法は約1.6mを測る。深さは約0.4mで埋土は1～3層に分層できる。柱はすべて抜き取られていた。ピット25から6世紀後半の須恵器の坏蓋（2）が出土した。

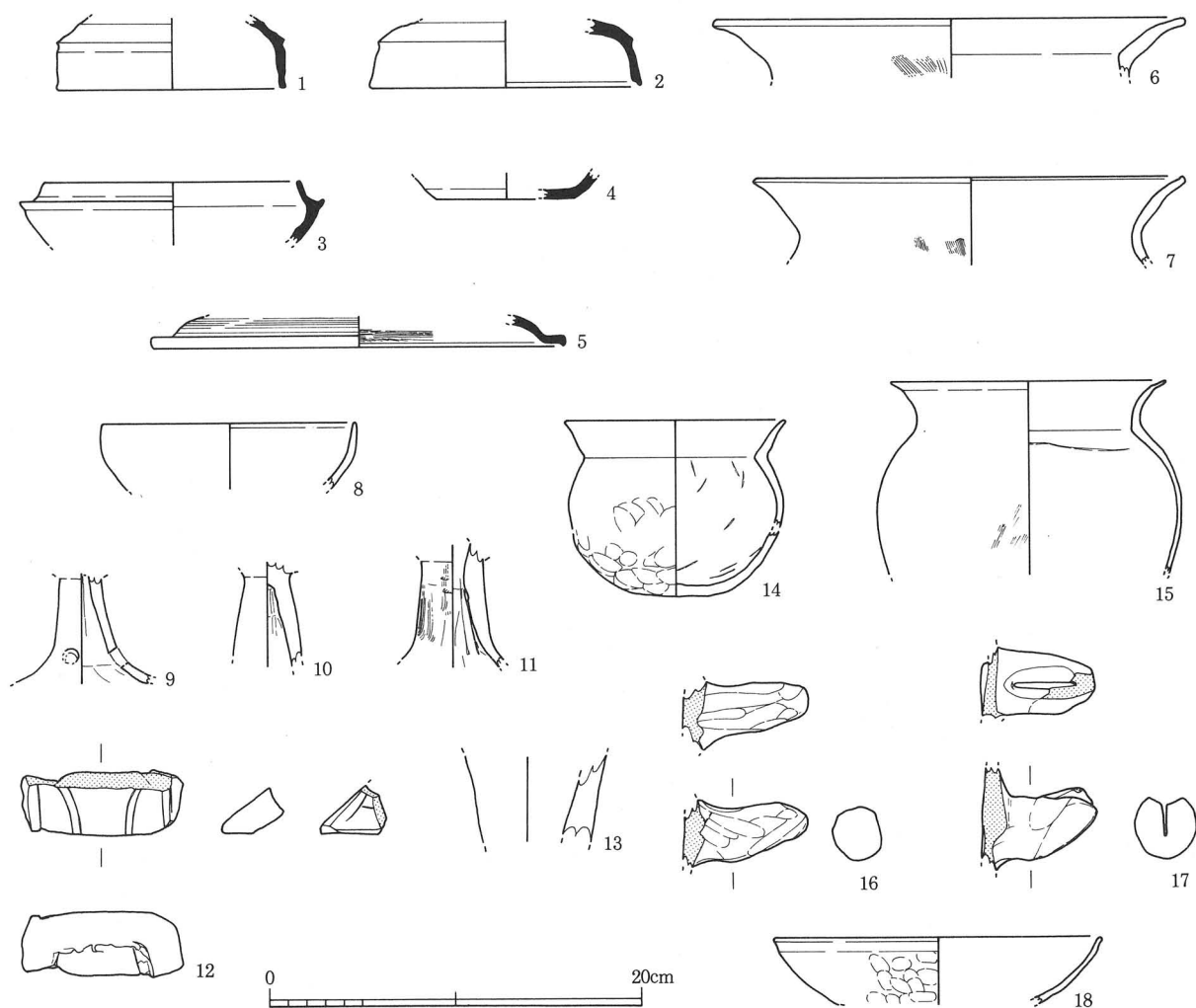
建物3 F6-3-C18-f5で検出した。全容は調査区外であるためわからないが、3×1間以上、主軸はN-22°-Eで、掘方は約0.6～1m、柱間寸法は約1.4～1.6mを測る。深さは約0.3～0.4mで埋土は1～3層に分層できる。柱はすべて抜き取られていた。総柱建物になる可能性が推測できる。ピット11（3）から6世紀後半の須恵器の坏身が出土した。

その他、包含層からは須恵器の坏蓋（5）、土師器の甕（6）、形象埴輪片（12）轆の羽口（13）が出土した。

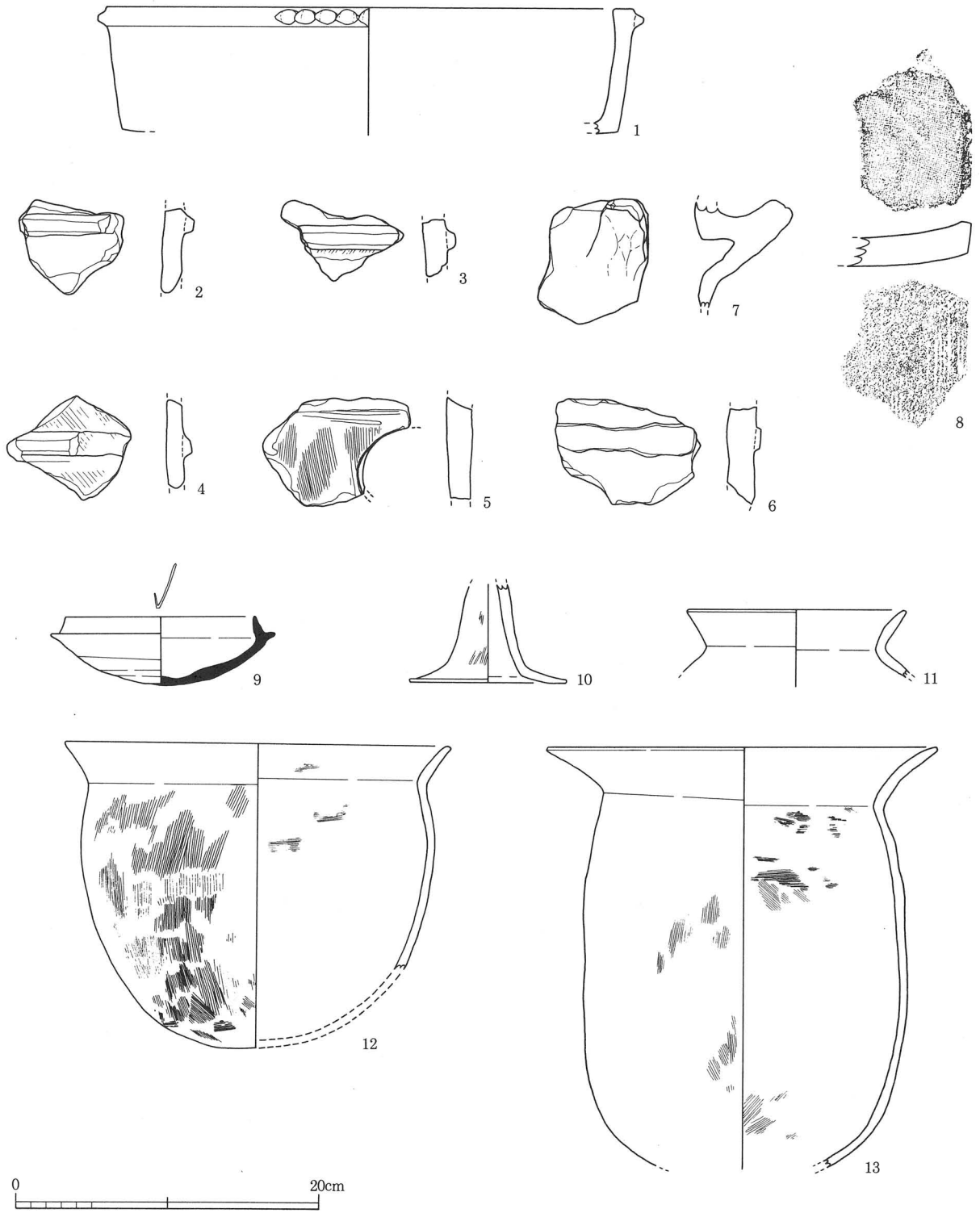
まとめ

今回の調査区では、掘方が約0.8～1 mを測る、大型の掘立柱建物が約3棟分検出された。いずれも全容は調査区外となり捉えることはできなかった。時期は、掘方出土の遺物が6世紀後半を示しているが、出土量がきわめて少ないこと。建物1が切っている落ち込み28出土の遺物が6世紀中葉から後半であり、ピット29（建物1）が切っているピット20出土の遺物（7、8）が6世紀中葉頃と思われるので、本調査区で検出した建物群の時期は7世紀代以降で考えたい。

今回検出した建物群は'98年度調査区では、検出されなかったので生活域としては北側に広がるものと思われる。今後の調査に期待したい。



第5図 '99年度出土遺物



第 6 図 '98年度出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	さかえまちいせき							
書名	栄町遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	1999-1							
編著者名	枡本 哲・井西貴子							
編集機関	大阪府教育委員会							
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL06-6941-0351							
発行年月日	1999年12月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'"	東経 °'"	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さかえまちいせき 栄町遺跡	はびきのし 羽曳野市 さかえまち 栄町	27222	136	34°	135°	平成11年1月 29日～平成11 年3月31日	152	国道170号 線歩道設置 事業
				32' 58"	36' 36"			
				34°	135°	平成11年8月 4日～平成12 年3月31日	70	
				33' 00"	36' 37"			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
栄町遺跡	集落	古代～中世	建物・溝	土師器・須恵器・ 瓦器・埴輪		掘方約80cmの大型 掘立柱建物検出。 7～8世紀代。		

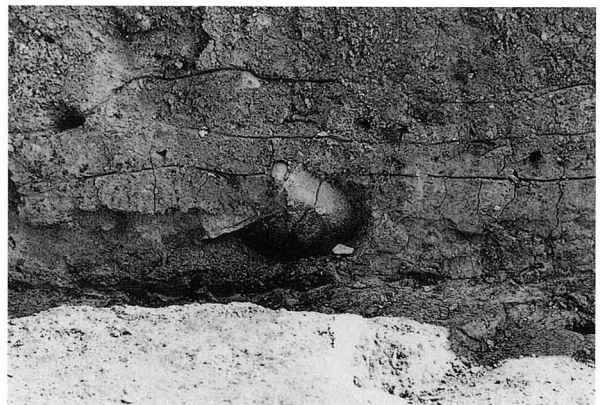
版 图



1998年度 調査区全景（北から）



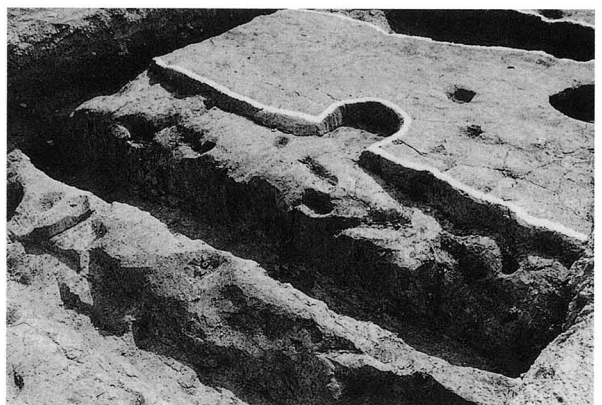
南端部 土坑群 遺物出土状況



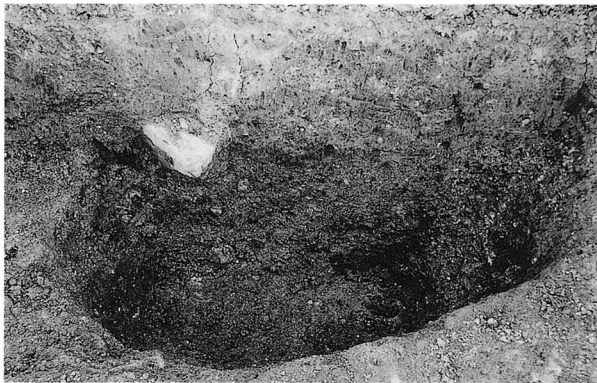
南端部断面遺物出土状況



中央部 土坑5 遺物出土状況



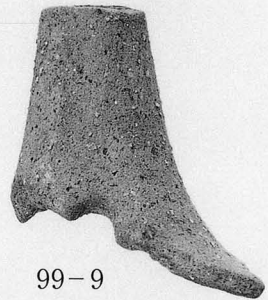
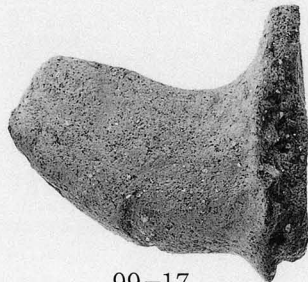
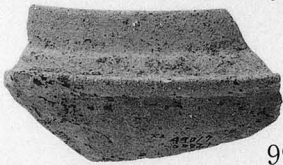
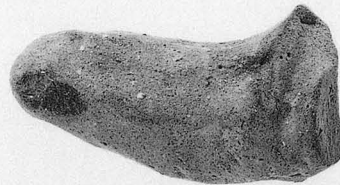
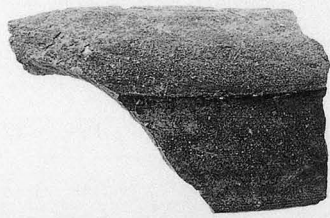
中央部 溝6 完掘状況



1998年度 調査区全景（南から）、建物1ピット断面（左ピット19、右ピット27）



調査区南端 流路32東壁断面



大阪府埋蔵文化財調査報告 1999-1

栄町遺跡

発行 大阪府教育委員会
〒540-8571

大阪市中央区大手前2丁目
TEL. 06-6941-0351

発行日 1999年12月

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

